

# 第1学年〇組 学級活動（1）指導案

日 時 令和7年〇月〇日（〇）第〇校時

場 所 1年〇組教室

指導者 〇〇 〇〇

## 1 議題「『えがお・なかよし・たすけあう』1-〇レベルアップ集会をしよう」

ア 学級における生活上の諸問題の解決

## 2 議題について

### (1) 児童（生徒）の実態

本学級は、素直で明るく、何事にも前向きに考え行動できる児童が多い。話し合ったことを、全員で実践し、より楽しく、居心地のよい学級になっていることを実感している。

〇月〇日に学級会のアンケートをした。「学級会が好きですか？」は、好きな児童は〇人、苦手な児童は〇人だった。「1年〇組のみんなとなかよくだのしくすごせていますか？」は〇人全員が、「はい。」という結果になった。学級に満足している児童が多いことが分かった。

学級活動（1）では、これまで、「1学期頑張ったね集会をしよう」、「〇〇さん、よろしくね、もっとなかよくなるうしゅうかいをしよう」、「クラスのキャラクターをきめよう」、「学級会のなまえをきめよう」などの議題について話し合ってきた。話し合う中で、多くの出された意見を比べ合い、よりよいものに決めていくことを経験してきた。自分の意見だけを通すだけではなく、他の意見を聞き、よりよい考えに決めていくことの大切さを学んできている。まだまだ、自分の考えを言えない児童もいる中ではあるが、自分の意見を持ち、学級のことを全員で考え、よりよいものに決定する。決定したことを、全員で実践し、クラスが成長していることを実感していけるような経験を積んでいきたい。

### (2) 議題選定の理由

本議題は、「読書を楽しもう集会をしよう」、「秋のスポーツを楽しもう集会しよう」、「係活動をレベルアップしよう」という候補の中から、半年を過ぎ、よりクラスの仲が深まり、クラスの合い言葉でもある「えがお・なかよし・たすけあう」が実感できるようにしたいという児童の思いから選定された。2学期になり、運動会という大きな行事や学活での集会活動、2学期から本格的に始めた係活動を通して、1年〇組を「えがお・なかよし・たすけあう」がより実感できるクラスにしたいという思いをもつ児童が多くいるように感じている。

この活動を通して、一人ひとりがより「えがお・なかよし・たすけあう」を実現するための方法を考え実行し、クラスの仲間によりよい関係を築いていこうとする児童を育成したい。

## 3 研究課題との関わり

### (1) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

### (2) 研究の視点

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり  
～特別活動の「見方・考え方」を働かせた話し合い活動の充実～

### (3) 研究課題解決のための仮説と手立て

仮説Ⅰ 自分たちが抱えている学級の諸問題に気づき、問題解決に、正面から向き合えるようにすることができれば、学級を形成する一員として、生活の充実向上のために進んで貢献しようとする態度や行動を身に付けることができる。

手立て① 事前の活動において、アンケートを通して、今のクラスの現状に目を向け、どこに問題があり、どこがよいところかを知り、よりよくしていこうとする気持ちをもてるようにする。

手立て② 集会での一人一役の実践、全員が学級会ノートに自分の考えを書いて学級会に臨むことを通して、学級の一員としての気持ちをもたせ、自分ごととして考えられるようにする。

仮説Ⅱ 意見の背景にある仲間の考えを理解したり、多様な意見のよさを生かしたりしながら合意形成し、実践することで、互いを尊重する温かい人間関係が構築され、協働的な学びの基盤となる実践的な態度を身に付けることができる。

手立て① 話合いのキーワード（共通のイメージ）をもち、提案理由を分かりやすく提示することで、話し合う意義を理解できるようにする。

手立て② それぞれの比べ合う場面において、意見を分類し、操作しながら、賛成、心配意見を出し、どの意見も大切にし、よりよい意見に決めていくようにする。

## 4 第1学年及び第2学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団生活に取り組もうとしている。

## 5 事前の活動

日時 活動の場	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
○月○日(○) 業間休み	○学級全員 ●司会グループ  ●議題を選定する。 ●話合いのめあて、話合いの柱を決める。	・各提案の扱いを明らかにし、提案者に伝えられるようにする。	【主体的に取り組む態度】 ◎よりよい学級づくりにはどの議題がふさわしいか積極的に考えようとしている。(観察) 【知識・技能】 ◎学級生活をよりよくするために

			進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。(観察)
○月○日(○) 帰りの会	●議題を学級全体に提案して、決定する。 ○議題を決定する。	・選定した議題について全員に知らせ、承認を得ることを確認する。 ・司会グループの提案を基に全員で決定する。	【主体的に取り組む態度】 ◎よりよい学級生活づくりのために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。(観察)
○月○日(○) 業間休み	●活動計画と学級会ノートを作成する。	・話合いのよりどころとなり、みんなに分かるような提案理由になるように提案者に助言する。	
○月○日(○) 5時間目	○学級会ノートに自分の考えを記入する。	・提案理由や決まっていることが共通理解できるよう必要に応じて助言する。	【思考・判断・表現】 ◎提案理由や話合いのめあてに沿った意見を考えて、学級会ノートに書いている。(学級会ノート)
○月○日(○) 業間休み	●全員の学級会ノートに目を通す。 ●役割を確認する。	・話合いの手順を確認するとともに、意見の出方や話合いの流れを予測するように伝える。 ・それぞれの役割で自分のめあてが言えるように指導する。	【知識・技能】 ◎話合いの進め方を理解している。(観察) ◎「えがお・なかよし・たすけあうクラスになるためにレベルアップをする」ための話し合いであることを理解している。(学級会ノート・司会グループ活動計画、クロームブック)
○月○日(○) 朝の会	○教師からの言葉等が書かれた学級会ノートを受け取る。	・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話合いの意欲を高める。	

## 6 本時の展開

### (1) 本時のねらい

- ・「えがお・なかよし・たすけあう」1-○レベルアップ集会をしよう」について考えることを通して、学級への所属感や自己有用感を育てるとともに、学校や学級をよりよくしていこうとする意欲や態度を育てる。
- ・提案理由を基に意見を出したり、友達の意見を聞いたりして、話合いの進め方、合意形成の仕方を理解する。

(2) 児童の活動計画 当日配布

(3) 教師の指導計画

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す児童（生徒）の姿 【観点】（評価方法）
1 始めの言葉  2 司会グループの自己紹介	・自分のめあてが言えるように指導し、役割への意欲や自信を高める。	
3 議題の確認	<b>「えがお・なかよし・たすけあう」1-〇レベルアップ集会をしよう</b>	
4 提案理由やめあての確認  5 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由の中で、特に大切なキーワードとなる言葉を示し、話合いの指針となるようにする。</li> <li>・提案者による説明では、劇を取り入れ、他の児童の関心を高め、提案理由が浸透できるようにする。</li> <li>・決まっていることを確認し、児童全体が共通理解した上で話し合いが行われるようにする。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇月〇日(〇)3校時に行く。</li> <li>・場所は1-〇教室。</li> <li>・準備の時間は、〇月〇日(〇)5時間目の学活の時間。</li> </ul>		
6 先生の話  7 話し合い 柱1 「えがお・なかよし・たすけあう」 1-〇がレベルアップするために、なにをするか。  柱2 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由の意識付けを行うとともに、話合いの視点、キーワードを確認する。</li> <li>・前回までの学級会での課題を踏まえて話し合えるように助言する。</li> <li>・発表者が偏らないよう指名の仕方を助言する。</li> <li>・司会役と共に教師も司会役となり話し合いを進める。話合いの方向がずれたり停滞したりしたときは、教師が積極的に助言をして話合いの方法を身に付けられるようにする。</li> <li>・自分だけでなく学級全体を意識した意見と理由を考えるように助言する。</li> <li>・仲間の意見を聞き、納得した上で自らの考えを変えることは必要であることを助言する。</li> </ul>	<p><b>【知識・技能】</b> ◎これまでの話し合いの経験を生かし、合意形成の手順や出された意見をさらに深めるための話し合いの方法を理解している。(観察・発言)</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ◎理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見を受け入れたりしながら、合意形成を図っている。(観察・学級会ノート)</p>

8 決まったことの確認	・ノート記録の児童が発表できるよう、事前に指導をしておく。	
9 話合いの振り返り	・発表時には、決まったことと理由も合わせて発表できるようにしておく。	
10 先生の話	・学級会ノートに今回の学級会の振り返りを記入する。	
11 終わりの言葉	・本時の活動の中で見られた児童の姿から集会活動への意欲が高められるような助言も行う。	
	・司会グループの活動を称賛するとともに、次回の学級会の課題と今後の活動に向けての見通しを確認する。	

## 7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童（生徒）の姿 【観点】（評価方法）
○月○日（○） 5 時間目 学活の時間	「えがお・なかよし・たすけあう」1-○レベルアップ集会の準備	○役割ごとに協力したり、工夫したりして活動できるようにする。 ○協力したり工夫したりして活動できた児童を称賛し、次時に繋げる。	◎目指す児童（生徒）の姿 【観点】（評価方法） 【主体的に取り組む態度】 ◎他の児童と協力して進んで取り組もうとしている。（観察・学級会ノート） 【思考・判断・表現】 ◎友達と協力したり助け合ったりして準備や会へ参加している。（観察・学級会ノート）
○月○日（○） 4 時間目	実践の振り返り	○活動全体を振り返り、自分の頑張り、友達のよいところを見つけられように助言する。	

## 8 備考 在籍児童数：○人